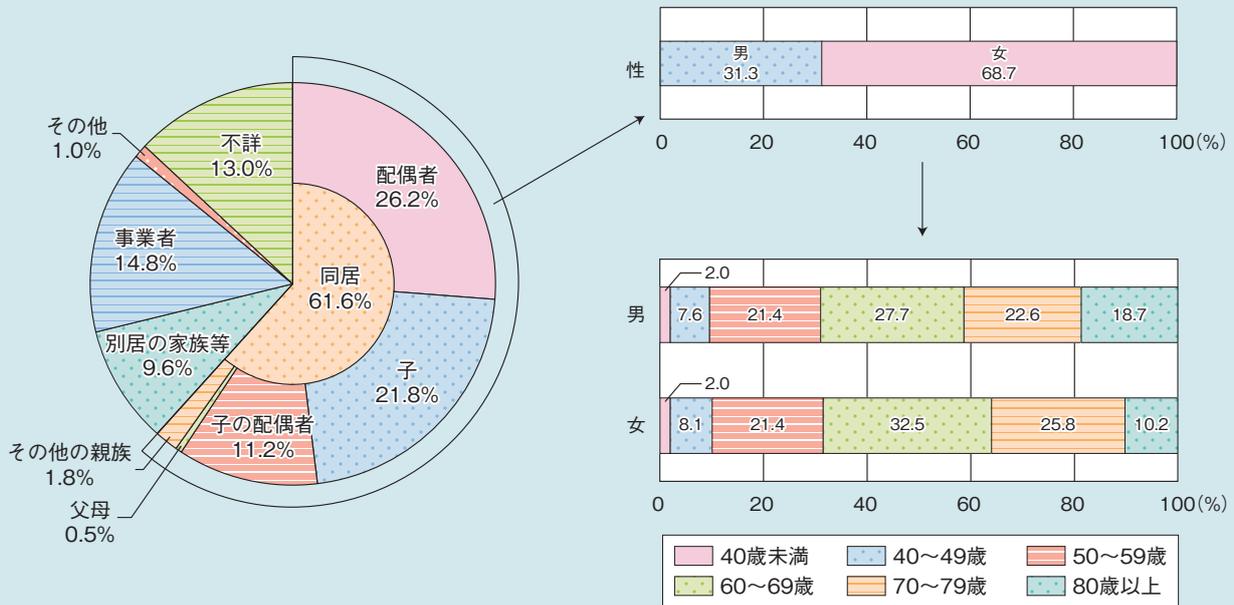


図1-2-16

要介護者等からみた主な介護者の続柄



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成25年)

(注) 主な介護者の年齢不詳の者を含まない。

○介護を受けたい場所は「自宅」が、約男性4割、女性3割、最期を迎えたい場所は「自宅」が半数を超える

- ・「日常生活を送る上で介護が必要になった場合に、どこで介護を受けたいか」についてみると、男女とも「自宅で介護してほしい」人が最も多いが、男性は42.2%、女性は30.2%と、男性のほうが自宅での介護を希望する割合が高くなっている。自宅以外では、「介護老人福祉施設に入所したい」(男性18.3%、女性19.1%)、「病院などの医療機関に入院したい」(男性16.7%、女性23.1%)、「介護老人保健施設を利用したい」(男性11.3%、女性11.2%)が多い(図1-2-17)。
- ・「治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいか」についてみると、「自宅」が54.6%で最も多く、次いで「病院などの医療施設」が27.7%となっている(図1-2-18)。

図1-2-17 介護を受けたい場所

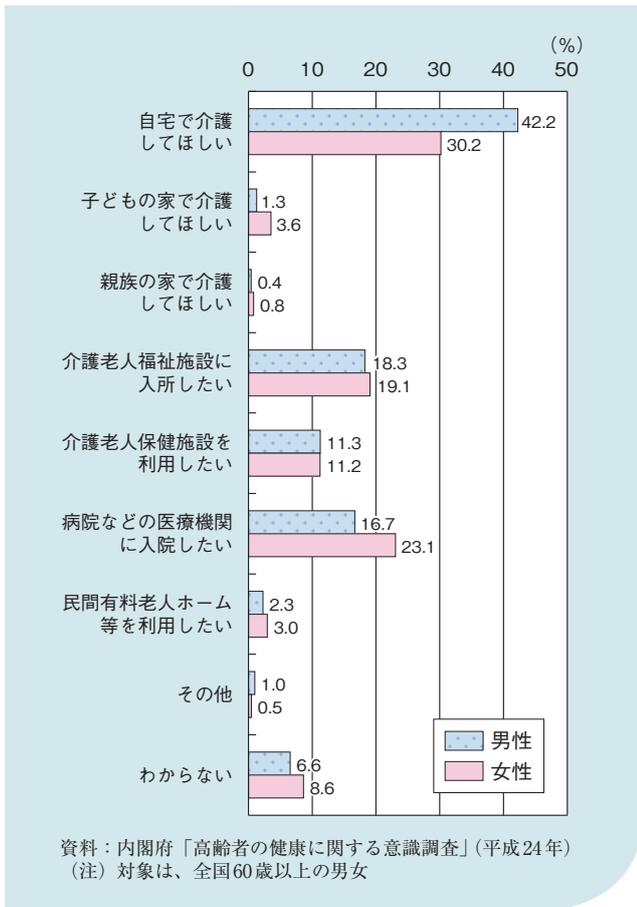
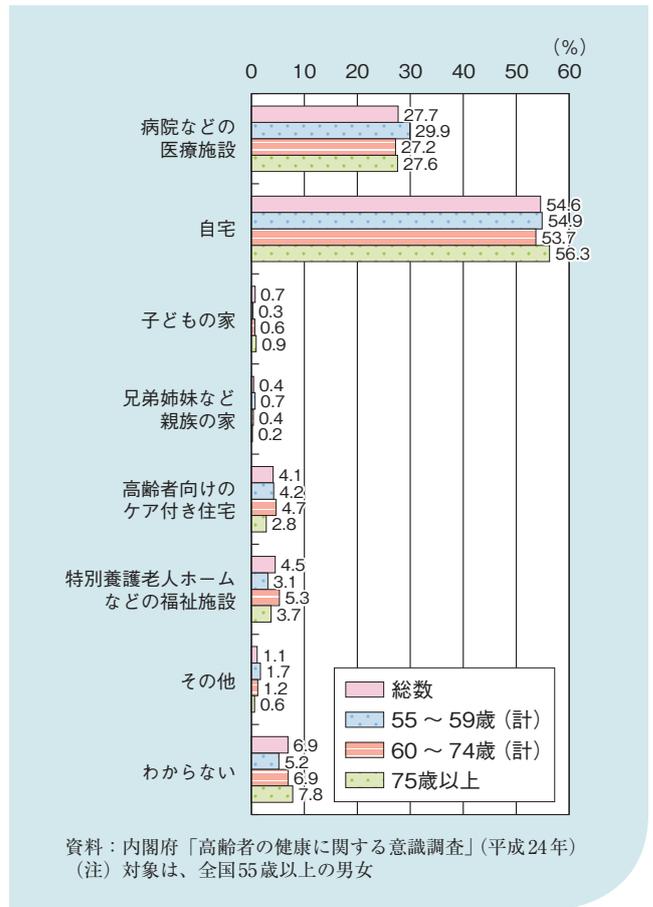


図1-2-18 最期を迎えたい場所

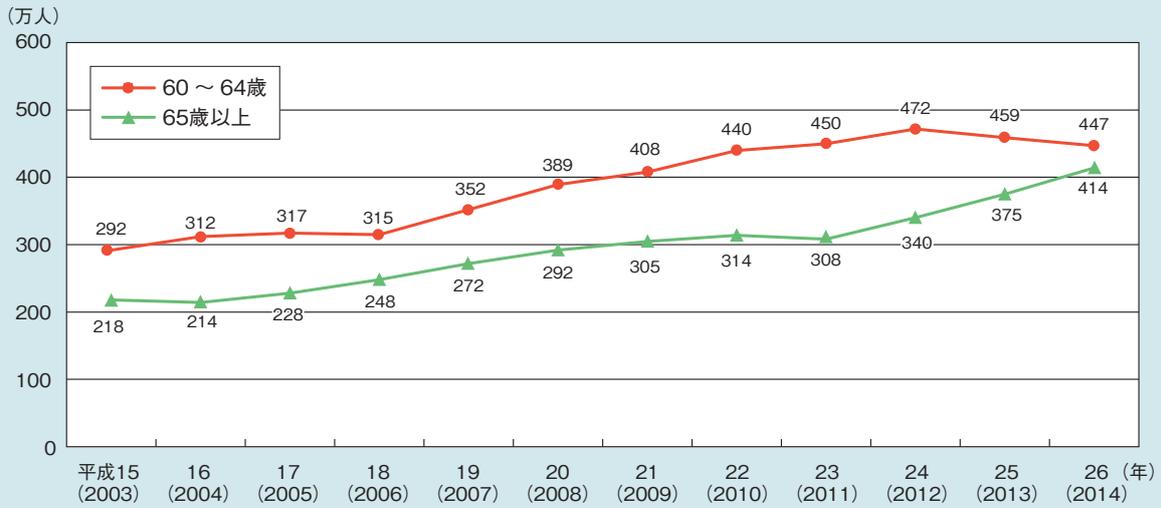


## 4 高齢者の就業

### ○高齢者の雇用情勢

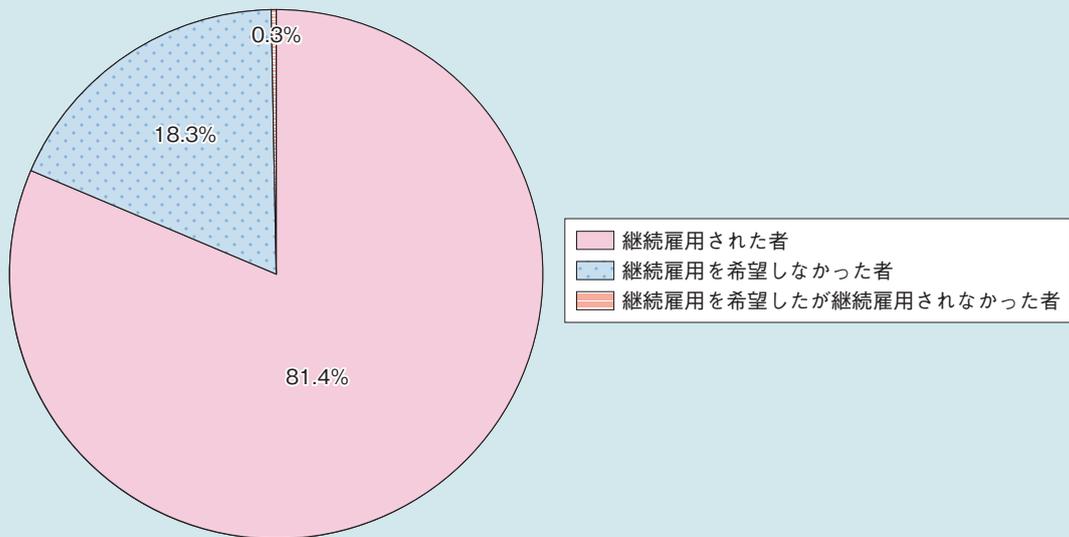
- ・全産業の雇用者数の推移をみると、平成26（2014）年時点で60～64歳の雇用者は447万人、65歳以上の雇用者は414万人となっている（図1-2-19）。
- ・定年到達者の状況をみると、平成26（2014）6月1日時点において、過去1年間の定年到達者のうち、継続雇用された人の割合は81.4%となっている（図1-2-20）。
- ・平成19（2007）年から22（2010）年は、経済情勢の急速な悪化を受けて60～64歳の完全失業率が上昇していたが、平成23（2011）年以降は低下し、15歳以上の全年齢計（3.6%）を下回った（図1-2-21）。

図1-2-19 雇用者数の推移（全産業）



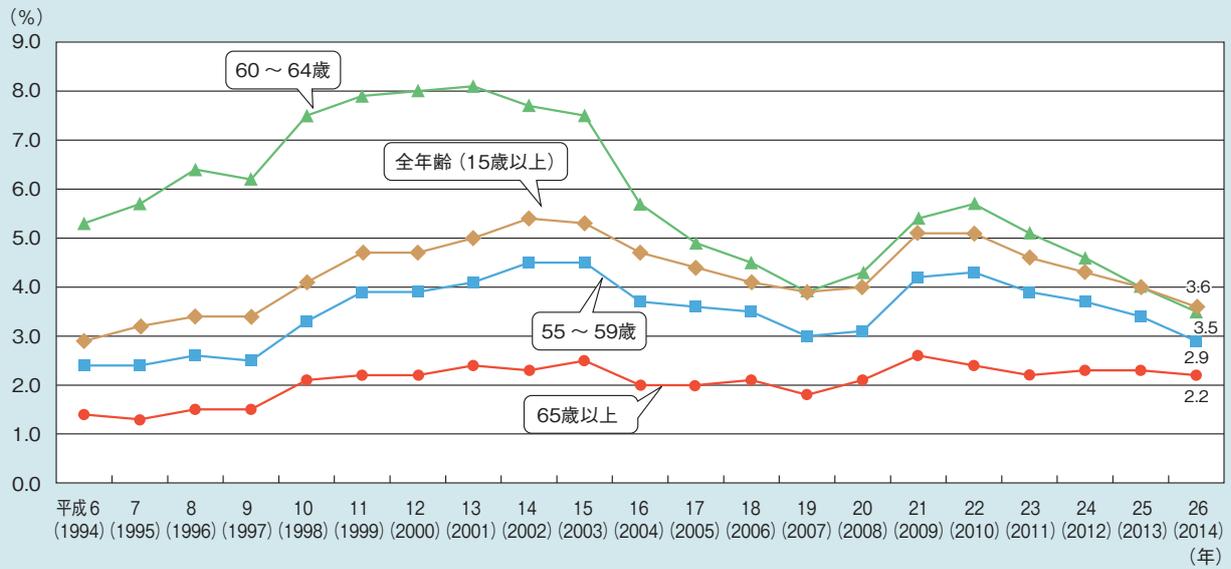
資料：総務省「労働力調査」  
 ※平成23年は、岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県の集計結果

図1-2-20 60歳定年企業における定年到達者等の状況



資料：厚生労働省「平成26年「高齢者の雇用状況」集計結果」  
 (注) 常時雇用する労働者が31人以上の60歳定年企業のうち、過去1年間（平成25年6月1日から平成26年5月31日）における定年到達者を集計。

図1-2-21 完全失業率の推移



資料：総務省「労働力調査」

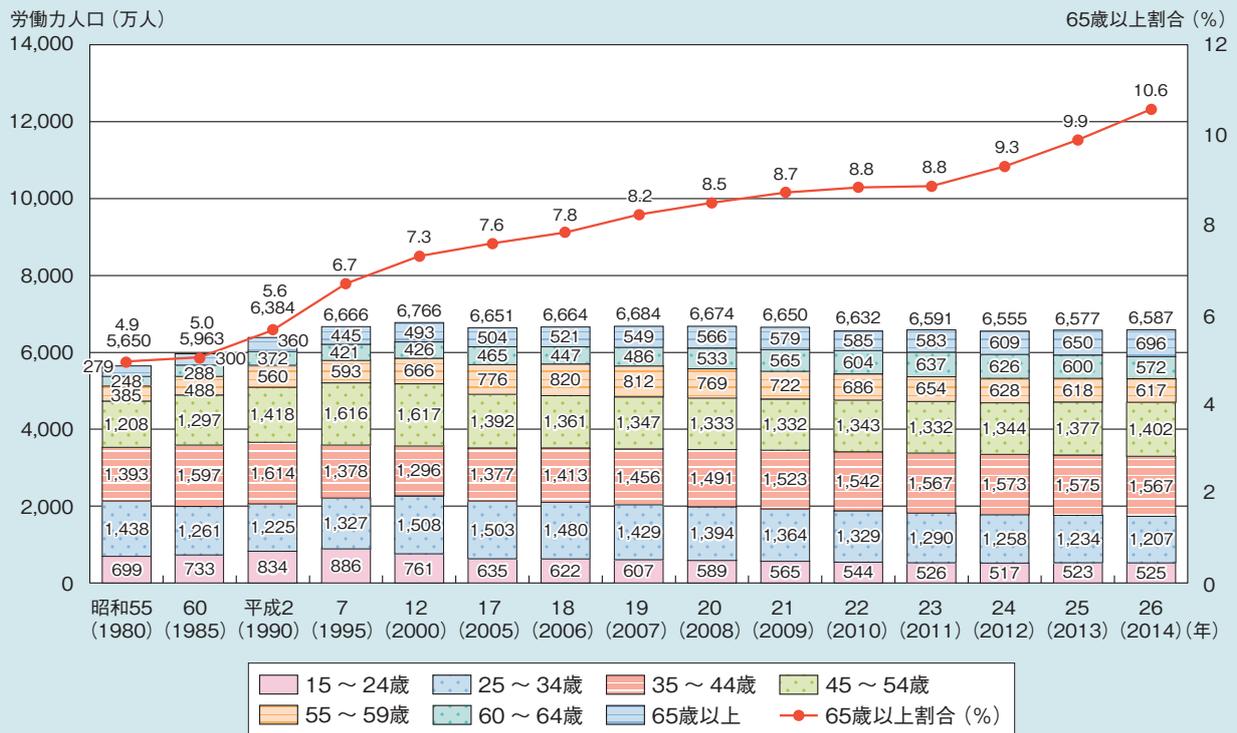
(注1) 年平均の値。

(注2) 平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

○労働力人口総数に占める65歳以上の人の比率は昭和55（1980）年から大きく上昇

- ・平成26（2014）年の労働力人口は、6,587万人であった（図1-2-22）。
- ・労働力人口のうち65歳以上の者は696万人（10.6%）となり、総数に占める65歳以上の者の比率は、昭和55（1980）年の4.9%から大きく上昇している。

図1-2-22 労働力人口の推移



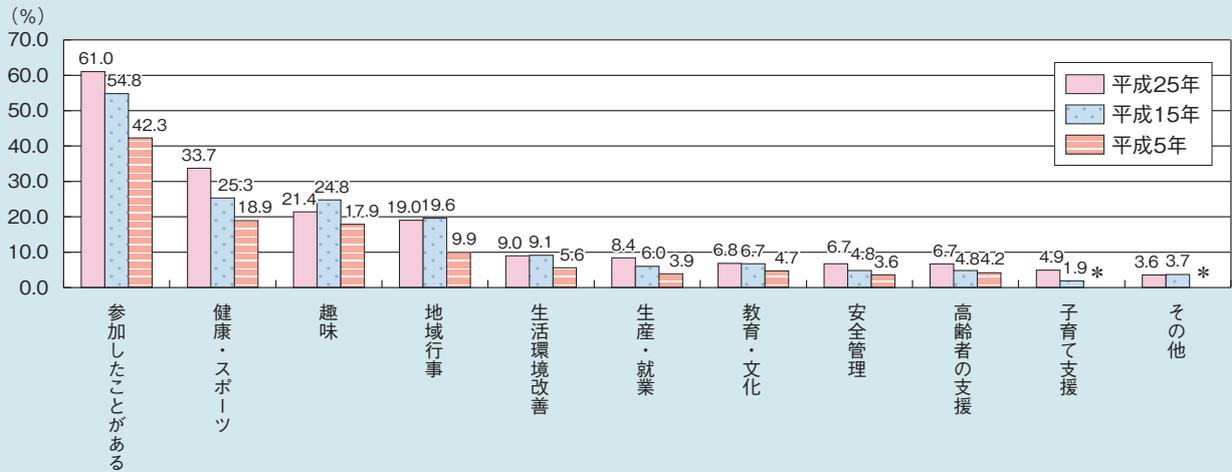
資料：総務省「労働力調査」(年齢階級別労働力人口及び労働力人口比率)より内閣府作成  
 (注1)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。  
 (注2)平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

## 5 高齢者の社会参加活動

### ○自主的なグループ活動に参加したことがある高齢者は約6割

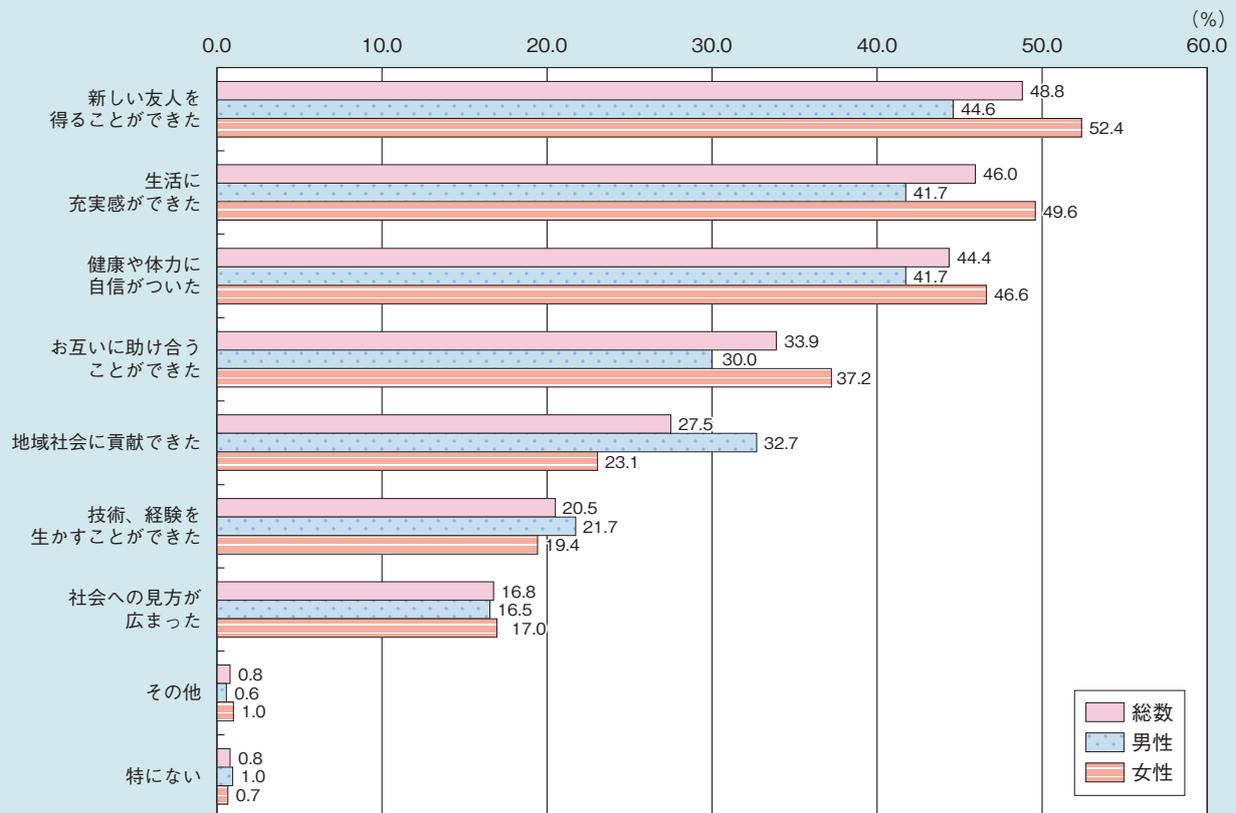
- ・60歳以上の高齢者の61.0%は何らかのグループ活動に参加したことがあり、その割合は20年前と比べて18.7ポイント増加(図1-2-23)。
- ・自主的なグループ活動に参加している高齢者の、活動全体を通じて参加してよかったことは、「新しい友人を得ることができた」(48.8%)が最も多く、次いで「生活に充実感ができた」(46.0%)、「健康や体力に自信がついた」(44.4%)の順となっている(図1-2-24)。
- ・高齢者が参加したい団体をみると「趣味のサークル・団体」(31.5%)が最も多く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」(29.7%)となっている。また、参加している団体をみると、「町内会・自治会」(26.7%)が最も多く、約4人に1人が参加している(図1-2-25)。

図1-2-23 高齢者の自主的なグループ活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）  
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女  
 (注2) \*は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。

図1-2-24 高齢者のグループ活動参加による効果（複数回答）

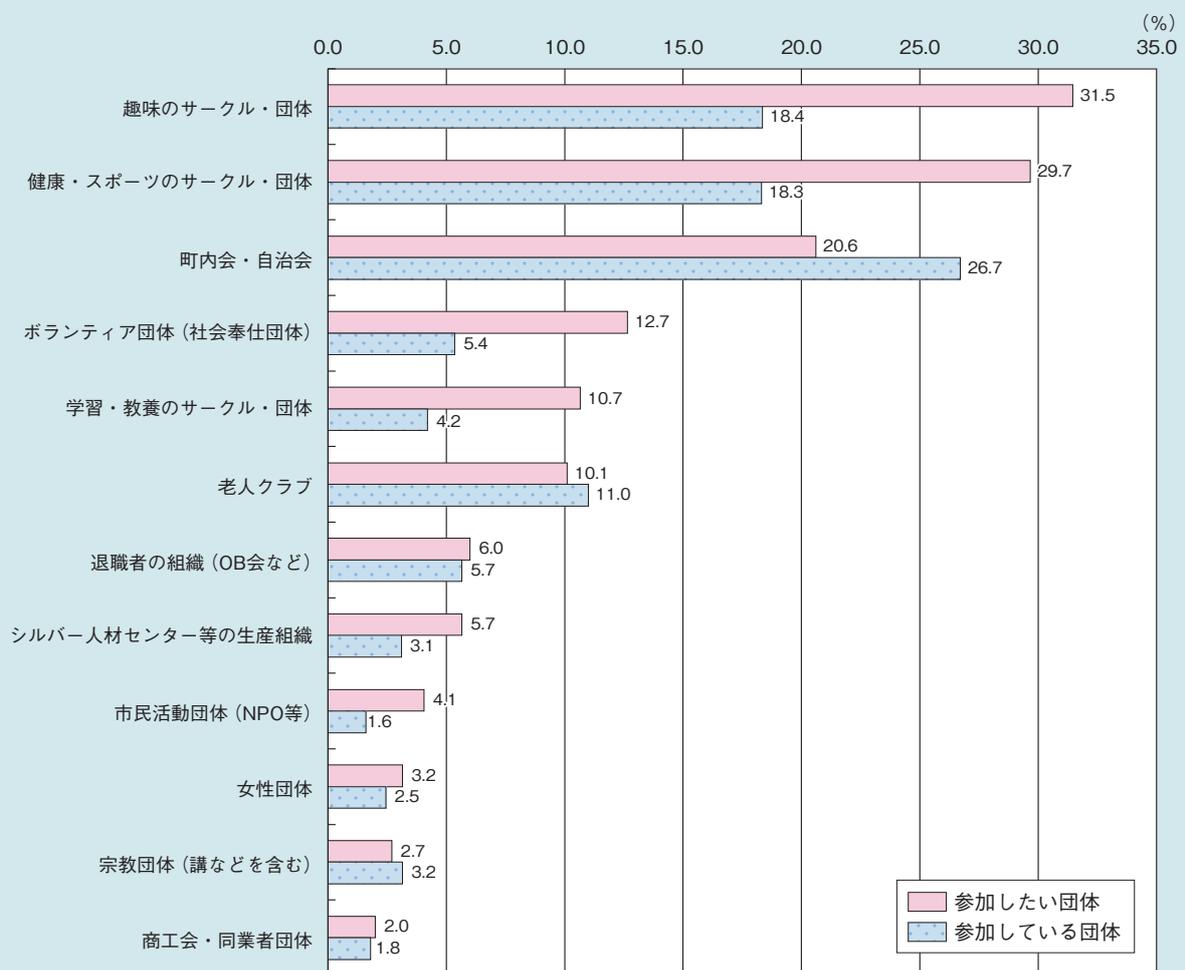


資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）  
 (注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

## ○高齢者の学習活動

- ・高齢者の生涯学習（人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のこと）への参加状況についてみると、この1年くらいの間には生涯学習をしたことのある人は、60代以上で5割以上であった。内容は、「健康・スポーツ」が60代で31.7%、70歳以上で28.8%と最も多い（図1-2-26）。

図1-2-25 参加したい団体と参加している団体（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）

（注1）調査対象は、全国の60歳以上の男女

（注2）「その他」や「参加したくない」などの回答を除く